

若き友へ

2012年1月

経済学部教授 高島 均

所感 11-5 グアテマラ通信その5-赤バスの人々・・・心優しき人は、誰なのか??

グアテマラにいる日本人は、大使館の人は勿論、旅行会社や食堂を経営しながら2~30年ここに住んでいる人、はたまた、何週間かスペイン語学校でスペイン語を習っているだけの人に至るまで、みな、声をそろえて、『グアテマラは危ないところだから、どこか行くときは、必ずシャトルバスかタクシーを使うなら Taxi Amarillo を使いなさい。決して、流しの白タクシーを使ってはいけません。市内バスに乗るなんて、自殺行為だ。』グアテマラでは、安全はお金で買うものです。』と言います。そうして、現地の人々が1ケツアルで済ませているところを、100ケツアルも200ケツアルも使うのが当然という生活をし、人々がどんな風に、どんな思いをして暮らしているかも見ることがないのです。観光客ならばシャトルバスに乗ってということもありえますが、ここに住んで、仕事をし、毎日のこととなると、毎回シャトルバスに乗ることはできませんし、そもそも、こちらの都合に合わせて走ってくれません。すると、今度は、『専用車でしたら、ご都合に合わせて走りますから、便利です。』とあって、100ドルも要求するのです。でも、私は、観光に来ているわけでも、スペイン語を習いに来ているわけでもありません。仕事をするためにグアテマラに住んでいるのですから、わずかな期間しか滞在しない観光客(スペイン語を習いに来た人も含め)と同じような生活をしていたら、直にお金が無くなってしまいますし、そもそも、私は、グアテマラに限らず、外国に行くときは、現地の人々がどのような生活をしているのか、この目で見、そして、自分でも同じように生活して、その生活というものがどういふものか、五感で感じたいからなのです。

ようやく、市内バスに乗れるようになりました。満員を通り越し、鈴なりのバスです。さすがに、窓枠に捕まっている人からはバス代を取らないのだろうと思っていたところ、妻によると、しっかり、その人たちからも車掌さんがバス代を徴収していたとのことでした。そんな状態のバスでも、私たちに対して、特に妻に対しては、車内の中で声をかけてくれて、席に座るように譲ってくれる人が多く居ます。すると、途中で立っている人たちが、手を引っ張って、譲られた席までギュウギュウ詰めの車内を通してくれます。日本では、シルバーシートでさえ、男も女も、老いも若きも、前にいる私を突き飛ばして座ろうとします。たまたま私の方が先に座ってしまうと、降りるまで睨み付けたりします。グアテマラを良く知っていると自称する日本人たちは、グアテマラの市内バス(赤バス)は泥棒やらなにやら、恐ろしい人間が乗っているから、決して乗らないようにといますが、一体どちらが恐ろしい人間で、どちらが心優しい人間なのでしょうかね?

(2012年1月)